

座談会

新春座談会

アガリクス復活の年に

利用者の不安払しょくに全力

アガリクスは、免疫賦活の健康食品として350億円という大規模市場を形成したが、一昨年2月の厚生労働省による「発がんプロモーション促進作用」報道により、市場が大きく落ち込んだ。しかし、関連企業がアガリクス・プラゼイ協議会を設立し、安全性の自主基準を策定して安全性をアピールすることで、市場の再生を図ってきた。昨年11月には、日本補完代替医療学会学術集会で、米国ハーバード大学医学部のタルコット博士が「アガリクスによるQOL改善に関する最新の研究成果」を報告。さらに、金沢大学大学院の大野准教授は、厚生労働省研究班としてアガリクスによるがん臨床試験を開始すると発表した。アガリクス・プラゼイ協議会と会員企業は、安全性、有効性のデータを積み重ねることで信頼を回復し、再び大規模市場を形成するために努力してきた。協議会の主要メンバーにこれまでの取り組みと今年の展望を語ってもらった。

2007年を振り返って

木村 この10年、アガリクスは健康食品の象徴的存在であり、代表選手でしたが、一昨年2月13日に問題が起こってから、アガリクス・プラゼイ協議会(以下、協議会)が結成され、皆さんは大変な努力をされてきました。それぞれの立場で、どういった取り組みをされたのかをお聞かせください。

竹口 2006年2月13日は忘れられない日になりました。皆さん、ショックを受けました。弊社も厚生労働省の安全性確認後、仙生露の安全性に関する一面広告を全国紙で展開したのですが、それでも響かない、このままではだめだという危機感がありました。もともとアガリクス

は、多くの愛飲者によって先導されました。それが、自然に市場が形成された商品です。愛飲者の信頼は抜群でした。それがあの問題で大変に混乱しました。事件後、バイオセラピー開発研究センターの豊田社長が、誰かやることになったことに自ら手を挙

が、多くの愛飲者によって先導されました。それが、自然に市場が形成された商品です。愛飲者の信頼は抜群でした。それがあの問題で大変に混乱しました。事件後、バイオセラピー開発研究センターの豊田社長が、誰かやることになったことに自ら手を挙

〈出席者〉

- アガリクス・プラゼイ協議会理事長 (株)エス・エス・アイ代表取締役 竹口雅之氏
- アガリクス・プラゼイ協議会理事 東栄新薬(株)代表取締役 元井益郎氏
- アガリクス・プラゼイ協議会理事 (株)エヒア営業部課長 小峯輝昭氏
- アガリクス・プラゼイ協議会理事、事務局長 (株)バイオセラピー開発研究センター 代表取締役 豊田剛史氏
- 司会(株)ヘルスビジネスマガジン社 代表取締役会長 木村忠明

のですが、そういう中で協議会をつくっていいことという気運が持ち上がったのです。9月には一社、一社お伺いして趣旨を説明し、10社が集まってスタートしました。年末には、さらに10社集まり、賛同社20社になって今日に至ります。20社の皆様にはよく協力いただき、感謝しています。

木村 この問題が起きたとき、30年ほど前の「クローラ事件」を思い出しました。光過敏症の原因物質であるフェオフィリンというカビが生えて、古いものを食べることで発疹が出るということで、厚生省(当時)も動き出して大問題になった事件です。

2000億円ほどあったクローラ市場は半分以下の100億円以下の市場に縮小してしまいました。しかし、それでもクローラはだめになりませんでした。各企業が手を結び、国の指導を受けながら基準をつくり、それを徹底させ、信頼を回復させた。そして、15年ほど前に500億円市場にまでなったのです。

いい商品というのは、再び信頼が戻ってくるという何よりの証拠であり、アガリクスも同じように回復できると思うのです。

元井 プラズルでは、日本この事件のために、真面目にやっていた何の罪もない人たちが非常に悲惨な状況に陥っています。私どもの農場ではありませんが、日本からの注文が激減した上、アガリクスを栽培するために畑に砂利を入れているので他への転用がきかない。そのため多くの日系家族が食べていけず、一家離散になっているという事実があります。

小峯 弊社は1982年から健康食品の発売を行いアガリクスは97年から販売を開始しました。その当時の販売価格は3万5000円で、弊社の他の商品と比較するとかなり高額で、お客様が受け入れられるかどうか不安でした。ところが実際にアガリクスのごことを勉強していくと、素晴らしい商材で、価格に見合う商品だと確信できました。実際、自分も思っていた以上に売れました。

しかし事件後、一社で動いてみても現状は打破できない。一社でやるよりこういう協議会が立ち上がったければ、アガリクスだけではなく他の商材なども、安全性についての基準ができ、業界全体が良くなるのではな

かと思っています。木村 がんの雑誌を出

座談会

していただき、読者のアンケート調査をしまし

その中で最も多かったのがアガリクスで、ほか

の問いに「効果あり」が半数以上、40%がわから

健康食品は非常に大きな役割を担っていると実感

直接的な効果のほかに、大きな心の支えになったり、効果

て、利用者は不安のどん底に突き落とされたと思いま

豊田 安全性ガイドラインをつくり、安心してご利用いただける環境を

安全性試験にしてみたいと思います。アガリクスを



（株） Eisai 代表取締役 竹口雅之氏

半健康人のところまでは

費用はかなりのかかりますが、それに含まれる

アガリクスは、自分のところがいかにいいか

には厳しくしたのです。試験には費用が発生しま

か。 竹口 ヒトでの過剰摂取

を用いた基礎試験で安全性が確認されている

で8名を対象に行いました。次に再現性が取れる

小峯 各企業は努力されてきたと思います。弊社

安心して利用できる環境をつくる さらに多分野の研究を深めていく

竹口 豊田



（株） BioSera 開発研究センター 代表取締役 豊田剛史氏

夫ですとは言えないまでも、健康な方がつづいて

元井 当社では臨床試験を開始する前に、マウス

初回はNK細胞の活性化試験を、ダブルライ

豊田 販売状況は、業種業態によりですが、一番

クリアしています。費用用的にはかなりの負担に

お客様の手ぶたを感じられるようになったり、昨

座談会

る素材を扱います。
豊田 協議会では今、マシナリズムの文献を集めた、今回問題となったアガリクスの研究を行っています。それは問題ではないと考えています。栽培環境での問題なのか、流通途中での問題なのか、薬剤の問題なのか検討しましたが、現状では問題ではないかと思われています。製品特有の問題ではないかと考えざるを得ません。問題を起した企業には生産・製造に関する情報開示を求めています。今後、万が一にも同じ問題が起きないように、問題がある生産方法は除外できる安全性ガイドラインに準拠していただきたいと考えています。

また、エンドユーザーに対して、安全性ガイドラインの中で定められた基準を順守しているかをきちんと開示する責任もあると思います。
木村 業界と消費者に責任を持つ形で情報開示を願っています。
竹口 現場では理解して頂いています。看板が大きいと非を認めるところで、会社も認めますが、木村 看板が大きいから「アガリクス」じゃない、「アガリクス」の商標にならなくてもいいのだからいい感じですね。
元井 12月13日の新聞記事によれば、その時点で88件のクレームがあることが報道されていました。企業としての責任を考えれば、もっと早く販売を中止するべきだったと思います。

健康被害の報告は全く安心して利用したいですね。
木村 私は、大手の商売が委縮したと思っています。自分がこの仕事にしたいという、食品業界に取材に行くと、経営者には日本人の健康のために日本人の健康を脅かすような役割を買って来た強い自負がありました。ところが、今、儲かればいいという発想に陥っている傾向が一部に感じられる。健康への害を避けるというライトを保持しながら、安全な身体に有益なものを提供するのが企業の責任ですね。
アガリクスの安全性、有効性
木村 次に安全性と有効性の取組についてお聞きしたいのですが、竹口 弊社は、安全性に関する1,000年から3年かけてラットを使った臨床試験、ヘルスの安全試験を実施してきました。この事件が起きてから2年間に及ぶ発がん試験をはじめ「神経障害」「生体毒性」「免疫毒性」の安全性データ、2003年米国がん学会発表をこのたび論文投稿し、「Food and Chemical Toxicology」(2008年1月号Vol. 46)に掲載されました。仙生薬を発売して14年間800万以上の方に愛飲いただき、3,000例以上のがん患者との協力をいただいて臨床試験も実施してきましたが、健康被害の報告は全く安心して利用したいですね。



東栄新薬(株) 代表取締役 元井益郎氏

や生活習慣病などに対して試験を繰り返していきま。また、発がん試験はありますが、国立大学で三つくらい研究を動かしています。最終的には患者さんのためにアガリクスから日本にアガリクスを輸入しようとしています。

この業界に入ったこともあ、しつかりしたエビデンスをそろえ、10年以内にアガリクスを、10年以上前から東京薬科大学と基礎研究を続けています。5年前はそのデータを順天堂大学に

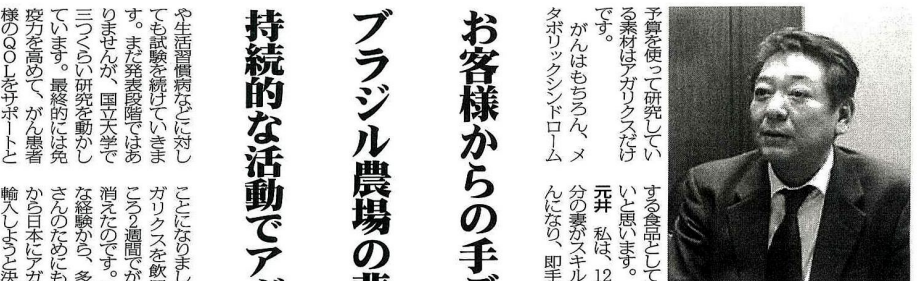


ヘルスライフビジネスマガジン社 代表取締役会長 木村忠明

飲用していただき、心から喜んでいただいています。小倉 協議会として、厚生労働省の発表が一つの転機になるのでは、というふうか、消費者自身を向けて、一般紙にだけ載るか否か問題も思っています。

木村 アガリクスの安全性については、それぞれが企業でやるか、シンジウムをやるか、違う角度でやるのがいいでしょうね。
元井 東京薬科大学、順天堂大学、名古屋大学、天宮大学の先生方が集って情報交換会を開催し、最新の情報に関して研究発表を行うことができればいいと思います。そして、情報を共有することで、より研究のスピードアップを図りたいと思います。
竹口 私どもは、ハーバード大学、金沢大学、NCIが国際的共同臨床試験を実施する決意をいたしました。

米国の国がん研究所は、2008年天然物からがん予防を開発するアガリクスプロジェクトというところを算定して、再発予防としてポタニカル(植物性医薬品)の開発を目指して研究を続けています。
元井 私は、12年前、自分の妻が乳がんになり、即手術という



ノエビア 営業部課長 小峯輝昭氏

持つて行くヒト臨床試験の安全性、有効性のデータをとり、今、その結果が論として出てきています。
 さき、昨年の4月12日に、英国の「FOOD JOURNAL」に「アガリクス」に関する論文が掲載され、国立健康・栄養研究所のホームページ「健康食品の安全性・有効性」のアガリクスの買にも新たな情報載せて

な研究をスタートしました。思った通りのいい結果が出ていますので、今年、論文として発表できると思っています。
木村 有効性についてもかなりの研究が進んでいます。
小峯 当社は、安全性、有効性についての研究を愛媛大学、北里研究所、協賛大学で行った。特に癌予防の劇症肝炎の障害について表

てしまっています。安全性も有効性もデータを出しているにもかかわらず、末端で使用される消費者の方々に直接伝える、間接的に伝える、伝えることができないものか、かかっています。
木村 効果効果が伝えられないのは大きな問題ですね。
小峯 実際、毛髪販売者側にお会いして指導したり、愛用者の方向にお会いしたりするのが伝えない事実が何も言えない。まさにここに業界の浮沈がかかっていると思います。

今年、伝えている活動積極的にやっています。展示会なども入る。イベントでパンフレットの配布を断念していきたくはないです。
木村 今年の協議会の計画は、

木村 NCIの先生方について新聞に取り上げること、先生方が集って研究会をやることをお願いしたい。活動を持続的にやっていくには、アガリクスのもの、業界の信頼が非常に重要だと思います。
豊田 魅力ある協議会にするために、ガイドラインをクリアして、いかに入会できるか、いかに、世間に認知を広げたいと思っています。
木村 今年、アガリクス復活を期待したいと思っています。本日は大変ありがとうございました。

お客様からの手ごたえが感じられる
 ブラジル農場の悲惨な状況の改善を
 持続的な活動でアガリクスの信頼回復を

このことになりませんが、アガリクスを飲用したところ、適度な細胞が消費された。そのような経験から、多くの患者さんのためにアガリクスから日本にアガリクスを輸入しようとしています。

木村 有効性については、データが出そろってきつつあり、今年は大変なテーマになると思います。昨年12月初めに議員連盟が、健康食品の法律を巡らなるといっているのが上がっています。協議会としてはどう考えますか。
竹口 世界的にも法律がないのは日本だけで